

産業技術総合研究所フェロー



中西 準子

なかにし・じゅんこ 工学博士。横浜国立大学名誉教授。環境リスク評価。文化功労者。76歳。

福島県は、原発事故に伴う放射線の健康への影響に考慮し、2011年3月11日の震災時に18歳以下だった全県民を対象に甲状腺検査を実施している。チェルノブイリで小児甲状腺がんについて、被ばくに比例した影響がみられたためである。

人、がんと判定された者が86人であった。受診者はおおよそ30万人なので比率は10万人中約29人となり、予想を超す高率であった。

## 福島・甲状腺がん検診の課題

放射線の影響がもう出たのか、しかもこれほど高率にと、当初はひどく驚いてしまった。甲状腺がんの原因は、ヨウ素131（粒子吸入と食品）の体内への取り込み（内部被ばく）と、土壌などに吸着している放射線セシウムの照射による外部被ばくの二つがあるが、外部被ばく量は低く、まず考えるべきはヨウ素131である。しかし、ヨウ素131もこれまでの計測値や予測値でもそれほど高くない。県「県民健康調査検討委員会」座長は「放射線の影響は考えにくい」と発言している。

ただ、被ばくの影響だとする意見も多い。問題は深刻のようにみえるが、ヨウ素131の半減期は8日ですでに環境中には存在せず、新たな摂取もないので、検討に一定の時間をかけてもそれほど大きな問題を惹起（さ）することはない。今後、さらに被ばく量推定も進められるようなので、その結果を待って議論するのがいいだろう。

被ばくの影響があったとしても、影響が出るまでには数年かかるとして、11年10月から14年3月までをベースライン調査（被ばくの影響がない時点）、それ以降は影響をみるための調査としている。このほどベースライン調査の結果が判明し、悪性ないし悪性の疑いがある者が109

もしい。委員会で出され、もう一つの意見が委員会で出され、もう一つの

激しい議論になっている。どういうことか。検診には必ずメリットとデメリットがある。メリットがデメリットを上回るとき検診が実施されるが、甲状腺については、今までのところ国民的検診は実施されていない。甲状腺がんは成長が遅い。小さながんのまま一生を全うする比率が相当高く、早期発見で取り

んも検出するスクリーニング効果と、生命を脅かさないがんまで発見するという過剰診断である。では、そもそも甲状腺がん検診を実施すべきでなかったのか。福島で甲状腺がんへの懸念が強いことを踏まえると、検診をしないという選択はなかった。もし県が実施しなかつたら、「被ばく隠し」の批判にさら

念している福島と、他の場所とは違いがあり、メリットとデメリットのバランス点がずれているのだと思う。それを無視した政策は採用できないだろう。しかし、これらを考慮しても、この3年の結果をみれば過剰診断の傾向はあると思える。福島

のQOLを考慮しつつ、過剰診断の弊害をなくすための措置が今後求められる。

除くことが必ずしもメリットをもたらさないと考えられているからだ。この際、メリットはがん検診による死亡率の減少とQOL（生活の質）の改善、無害証明による安心感などを尺度として評価する。

エコーの感度が良くなれば微小がんの発見が容易になり、がん患者は増える。これには二つの側面がある。数年後に臨床診断されるであろうが

らされ、子を持つ親は病院に駆け込んだに違いない。また統一的なガイドラインを作らなかつたら、ばらばらの診断基準で実施され、大騒ぎになったことは想像に難くない。

委員会で過剰診断をめぐり激しい議論が続いているが、福島では、過剰診断への批判をあまり耳にしな

整問題である。米英では高齢者の前立腺がん検診や、ある年齢の乳がん検診についても同様の問題が指摘されている。わが国でも、がん検診の効果と弊害について科学的検討を進め、経過を国民に示すべきだ。科学的検討をベースにしつつも、メリットとデメリットの最後の選択は、国民に委ねられていることを、福島

を経験は教えてくれる。

を犯しているかのようだが、そうではない。すべてのがん検診につきまとう、メリットとデメリットの調

を犯しているかのようだが、そうではない。すべてのがん検診につきまとう、メリットとデメリットの調

を犯しているかのようだが、そうではない。すべてのがん検診につきまとう、メリットとデメリットの調

を犯しているかのようだが、そうではない。すべてのがん検診につきまとう、メリットとデメリットの調

を犯しているかのようだが、そうではない。すべてのがん検診につきまとう、メリットとデメリットの調

を犯しているかのようだが、そうではない。すべてのがん検診につきまとう、メリットとデメリットの調

を犯しているかのようだが、そうではない。すべてのがん検診につきまとう、メリットとデメリットの調

を犯しているかのようだが、そうではない。すべてのがん検診につきまとう、メリットとデメリットの調